

循環器内科/冠疾患内科プログラム

【研修(カリキュラム)の特徴】

高齢化社会を迎え、心筋梗塞・心不全等の循環器疾患患者は増加の一途をたどり、その専門医に対するニーズは年々高まっています。専門分野は、虚血性心疾患、心不全、閉塞性動脈硬化症、不整脈、高血圧など多岐にわたり、診療は循環器救急診療から一般内科医として必要な生活習慣病まで幅広い領域にまたがります。このため我々は循環器内科学を中心に幅広い診療が行える優れた臨床内科医の育成に力を入れています。また循環器専門医資格を取得できるよう指導するだけでなく、生涯にわたって皆さんの内科医・循環器専門医としての活動をサポートしていきます。

【研修目標】

1. 循環器救急疾患（急性心筋梗塞、不整脈、心不全等）に対処できる。スワンガンツカテーテルや一時的ペーシングの挿入・管理ができる。
2. 慢性心不全・虚血性心疾患・閉塞性動脈硬化症や高血圧症・高脂血症・糖尿病等生活習慣病の管理ができる。
3. 各種検査（心臓カテーテル検査、冠動脈造影検査、運動負荷試験、心臓超音波検査、心臓核医学検査）を自分で行える。

備考：日本循環器学会認定循環器専門医受験資格は①日本循環器学会の会員歴が6年以上②満6年以上の臨床研修歴（そのうち3年以上は日本循環器学会指定の研修施設で研修）③日本内科学会認定内科医（卒後研修3年で受験資格を得る）である、の3つを満たす事です。兵庫医科大学病院は日本循環器学会の指定施設です。また関連病院にも指定施設が多数あるので受験資格を容易に得る事ができます。

【臨床コース】

【レジデント（卒後3年目）カリキュラム】

病棟（3ヶ月はCCU）で循環器疾患患者の診療にあたりながら、心臓カテーテル・超音波・核医学等の検査に従事し、基本をマスターしてもらいます。また教授診の補助をしながら外来診療も学びます。

【レジデント（卒後4～5年目）カリキュラム】

およそ1年間循環器診療に従事するとそれぞれのサブスペシャリティへの興味が湧いてきます。侵襲的な治療（冠動脈インターベンション・カテーテルアブレーション・末梢動脈形成術 等）にチャレンジしたくなる人もいれば、心臓超音波や核医学検査等の検査を深く追究したくなる人もいるでしょう。卒後4～5年目は病棟勤務しながらそれぞれの個性を伸ばしてもらいます。

備考：サブスペシャリティの専門医としては日本超音波医学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医・専門医、日本不整脈心電学会不整脈専門医、日本心臓リハビリテーション学会認定心臓リハビリテーション指導士等があります。兵庫医科大学病院は日本心血管インターベンション治療学会研修認定施設および日本不整脈心電学会不整脈専門医研修認定施設です。また、後期研修の全て又は一部を関連病院・関連施設で行う事もできます（ただし卒後3年目の期間に他施設で研修を行う場合は病院長の許可が必要）。関連病院では循環器疾患の専門的研修が主体となりますが、循環器内科を中心として内科全般の研修を希望する場合には、そのような関連病院を紹介します。

【レジデント A（卒後 3 年目）の他部署研修について】

総合診療能力のスキルアップのため、希望により、救命救急センターで 3 ヶ月研修を行うことができます。

【関連病院】（下線病院は卒後 3 年目以降の臨床研修として現在派遣中の病院です。）

兵庫医科大学ささやま医療センター、N T T 西日本大阪病院、大阪府立急性期・総合医療センター、大阪南医療センター、川崎病院、神戸掖済会病院、桜橋渡辺病院、三世会河内総合病院、多根総合病院、東大阪市立総合病院、明和病院、等。

【カンファレンス・症例検討会等】

水曜日は医局会では症例検討会・最新知識のレビュー・リサーチカンファレンスが行われます。心臓血管外科と合同の CVC (cardiovascular conference) が行われます。詳細は「兵庫医科大学病院臨床研修プログラム」を参照して下さい。

【大学院コース】

大学院に進学し、学位取得を目指すコースです。学位（医学博士）は将来教育・研究職に従事するためには必須の称号です。研究内容は基礎実験から臨床研究まで多岐に亘ります。研究するという事は自分が今行なっている診療行為の理論的基盤を深く知る事であり、明日のスタンダードを作る営みに参加する事です。研究に携わった経験によって得られる科学的視点は確実に臨床医としての能力を高めてくれます。研究生活に入る前のある程度の循環器内科医としての専門的知識がないと研究の意義が理解しにくいので、最初の 1 年はレジデントを兼職し臨床コースと同じように臨床業務に従事してもらいます（レジデント（卒後 3 年目）カリキュラム参照）。2～4 年目は研究主体の生活になりますが、臨床能力を維持するため検査・外来・当直業務には引き続き従事していただきます。学位取得のためには一流の英文雑誌に原著論文を掲載する必要がありますが、責任をもって指導します。

後期研修は各人の将来像によって多様であるべきです。2つのコースを提示しましたが、これらはいくまでもモデルケースです。臨床コースの途中からでも大学院に入学できます。皆さんのキャリアパスに応じてできる限り希望に沿いますので気軽に相談してください。

【指導医】

主任教授：増山 理（指導責任者） 主任教授：石原 正治（指導責任者）

准教授：朝倉 正紀 准教授：峰 隆直 講師：廣谷 信一 講師：内藤 由朗

講師：合田亜希子 講師：正木 充 助教：赤堀 宏州 助教：澁谷 真彦

助教：奥原 祥貴 助教：安藤 友孝 助教：今仲 崇裕 助教：江口 明世

助教：貴島 秀行 助教：三木孝次郎 助教：福井 美保 助教：蘆田 健毅

助教：斎田 天 助教：大星真貴子

【研修統括者】

助教：赤堀 宏州

【問い合わせ先】

赤堀 宏州 TEL：0798-45-6553 E-mail: hi-akahori@hyo-med.ac.jp